

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年8月9日時点)

➤ **露軍が各正面で攻勢を強め、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続する一方、ウクライナ軍は火砲や砲弾、防空ミサイルなどの不足に直面する中で防御戦闘を継続**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者50万人以上 (英国防省24年5月31日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

- 露国防省は、5日にドネツク州ノヴォセリウカ・ベルシヤ村、6日にドネツク州ティモフィウカ村を解放したと発表
- 露国防省は、6日、「ウ」が戦車11両、装甲車20両で装備した人員300人の編成で、クルスク州のニコライエボ・ダリノ村及びスジャ地区オレシュニヤ村にある露部隊拠点を攻撃したと発表。また、ゲラシモフ露参謀総長は、プーチン大統領に対して、最大で1000人規模の「ウ」軍部隊がクルスク州スジャ地区の拠点占拠のため攻撃を実施と報告 (8月6日、7日)

- 米メディアは、7月の長距離無人機攻撃数について、露が426機であったのに対し、「ウ」は520機以上を使用し、「ウ」が初めて露を上回ったと指摘 (8月1日)
- ゼレンスキー大統領は、F-16戦闘機が「ウ」に到着し既に運用を開始している旨表明。また英紙は、「ウ」が同戦闘機の最初の10機を受領したとし、年末までに20機受領すると報道 (8月4日)
- ゼレンスキー大統領は、「ウ」製造業が本年既に100万機の無人機製造を受注と発言 (8月6日)
- 「ウ」メディアは、露が北朝鮮製弾道ミサイルの使用を再開した可能性が高く、残骸からKN-23と推測される旨報道。「ウ」空軍も、6日に「イスカンドールM」弾道ミサイルまたはKN-23×4発がキーウに向けて発射されたと発表 (8月6日)



- 「ウ」軍情報総局は、「ウ」軍が、クリミア半島に所在するS-400対空ミサイルの発射機×4台のほか、セヴァストーポリ港で修理中であった露黒海艦隊のキロ改級潜水艦「ロストフ・ナ・ドヌー」(巡航ミサイル「カリブル」搭載可能、23年9月にも「ウ」ミサイル攻撃により損傷)を損傷させたと発表 (8月3日)
- 「ウ」軍情報総局は、衛星画像を公開し、3日の無人機による露南部ロストフ州のモロゾフスク飛行場への攻撃で、Su-34戦闘爆撃機×1機及び弾薬庫が破壊され、他航空機2機が残骸により損傷と発表 (8月5日)